

福島第一原子力発電所現地確認報告書

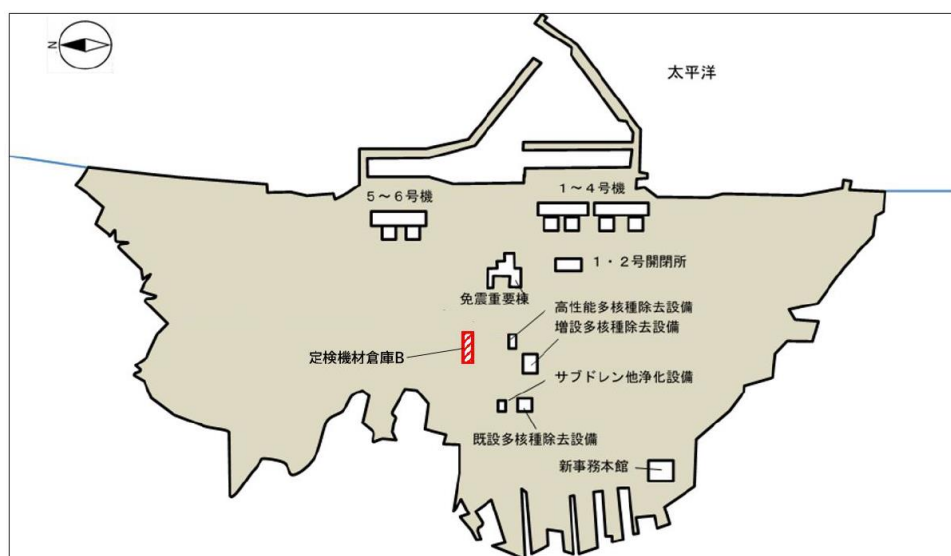
- 1 確認日
令和6年8月30日（金）
- 2 確認箇所
定検機材倉庫B（図1）
- 3 確認項目
横置き型ブルータンクの解体除染作業の状況

4 確認結果の概要

横置き型ブルータンク（以下「ブルータンク」という。）は、震災直後から増え続ける建屋内滞留水の移送先として使用されてきた。しかし、敷地利用の観点から縦型溶接タンクへの移行が進み、現在当該タンクは、利用されず福島第一原子力発電所構内に仮置きされている。

利用から10年以上経過し外面に塗装剥がれが見られるため、東京電力は、定検機材倉庫B内にブルータンクの解体除染設備を設置し、全367基の解体及び除染を今年度から実施する計画としている。今回は、前回に引き続き、計画の進捗状況について確認した。（前回確認：[令和6年7月23日](#)）

- ・定検機材倉庫Bの東西両側とも、搬入または搬出ブースの仕切りが設けられ、解体除染設備設置に向けた準備が進められていた。また、各ブース間を移動するための隔離型通路が設置されていた。（写真1）
- ・定検機材倉庫Bの中央部において、切断及びFRP^{*}剥離装置の資材が運び込まれ、装置の組み立て作業が実施されていた。（写真2）
- ・東京電力は、9月末までにブルータンクの解体除染設備を設置し、未使用のブルータンクから解体作業を開始する予定としている。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図

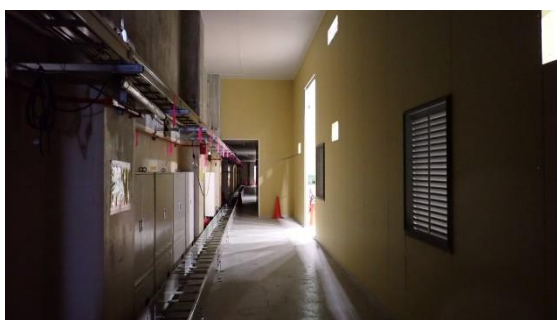
※FRP……プラスチックにガラス繊維や炭素繊維などを複合して強度を向上させた強化プラスチックのこと。強化材としてガラス繊維を用いたGFRPや炭素繊維を用いたCFRPが一般的で軽量で耐久性がよく、成型・加工も比較的容易なことに加え安価なため小型船舶の船体や、自動車・鉄道車両の内外装、ユニットバスや浄化槽等の住宅設備機器などで広く利用されている。こうした素材をタンク内部に塗布することで、耐水性・機密性を高めたもの。



(写真1-1)
定検機材倉庫B西側の状況
(搬入ブース：仕切り壁設置済)
(東側を向いて撮影)



(写真1-2)
定検機材倉庫B東側の状況
(搬出ブース：仕切り壁設置済)
(西側を向いて撮影)



(写真1-3)
定検機材倉庫B中央部の状況
(隔離型通路内)
(西側を向いて撮影)



(写真2)
定検機材倉庫B中央部の状況
(切断及びFRP剥離ブース)
(東側を向いて撮影)

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常な値は確認されなかった。